

MetaGenomeGAMBLER
インストールガイド

Version 3.4/2.4



インストールの前にお読みください

目次

インストールの前にお読みください	Page-1
インストールの前に	4
ソフトウェア動作環境	4
パッケージに含まれる内容	5
MGG のインストール手順	6
ソフトウェアのインストールメディア	6
インストールからソフトウェアを起動するまでのあらすじ	6
インストールの実行 (Windows)	8
CDROM からのインストール	8
インストールの実行 (Mac OS の場合)	14
ライセンス情報の確認	21
インストールのトラブル	22
JRE のダウンロードとインストール	23
Java メモリー割当の変更	25
Java メモリー変更ユーティリティを使用する方法	26
Windows xp の場合	26
Mac OS X の場合	27
手動で Java メモリー割当設定を変更する方法	28
Windows xp の場合	28
Mac OS X の場合	29
64bit OS を使用する場合	31
Windows xp の場合	31
Mac OS X の場合	31
MGG のアンインストール方法	32
Windows xp の場合	32
Mac OS X の場合	33
ドングルとは?	34

あなたのライセンス情報

ドングル ID	0x_____		
ライセンス ID	L_____		
	Edition 名	登録日	更新期限
新規登録	MG_____	20__/__/__	20__/__/__
ライセンス更新			
ライセンス更新			
ライセンス更新			
ライセンス更新			

メタゲノムガンブラー インストールガイド
MetaGenomeGAMBLER Installation Guide

2005 年 10 月 1 日 初版

2010 年 3 月 18 日 改訂版

著者 インシリコバイオロジー株式会社

発行所 インシリコバイオロジー株式会社

発行者 大山 彰

〒 231-0023 横浜市中区山下町 24 番地 8 SOHO STATION 706 号

電話 045-222-0343 Fax 045-222-0434

E-mail info@insilicobiology.co.jp

URL http://www.insilicobiology.co.jp/

©2005-2009 in silico biology, inc. 無断複写、複製を禁じます

ドングル使用上の注意事項	34
ドングルドライバーのインストール	36
Windows xp の場合	36
Mac OS X の場合	38
MGG の起動と終了	40
MGG の起動	40
MGG の手動による起動	41
MGG の終了	42
MGG の Version Up	43
MGG 最新版の手動による確認とダウンロード	43
MGG 最新版の自動確認とダウンロード (近日実装予定)	44
ドングルの更新・アップグレード・製品の追加	46
ドングルライセンス更新の準備	47
Secure Update Utility のインストール	47
ライセンス要求方法	47
ドングルライセンスのアップデート期限更新	50
ドングルライセンスのアップグレード	51
ドングルへの異なる製品ライセンス追加	52
ドングルへのライセンスの反映	53
Windows xp の場合	53
Mac OS X の場合	53
ご質問やご意見について	55
ご質問ご意見の送付先	55
ご質問やご意見の内容について	55
トラブル発生の場合、明記いただきたい項目	55
あなたのライセンス情報	59

インストールの前に



MGG の動作環境

MGG ソフトウェアは、Windows XP および Mac OS X の環境でのみ動作します。ソフトウェア開発言語は JAVA Application です。このため実行には、JAVA Runtime Environment (JRE) が必要です。また、MGG ドングルライセンス版を購入された場合は、USB ポートのあるコンピュータにインストールする必要があり、このときドングル用ドライバーのインストールも必要となります。

ソフトウェア動作環境

OS: Windows XP/Vista および Mac OS X.4 以上

必要 Memory 容量: 最低 256MB

推奨: 1024MB 以上

必要ディスク容量: 最低 1 GB (データに依存)

ディスプレイサイズ (単位ピクセル)

最低 ライト版 700W X 720H

プロフェッショナル版 700W X 610H

推奨 ライト版 1000W X 800H

プロフェッショナル版 1000W X 800H

周辺機器: 2 ボタンマウス

USB ポート: 1 つを占有 (ドングルライセンスの場合)

必要ソフトウェア環境:

Java Run Time Environment Version 1.5 以上

本編最終行です。以下はメモ欄としてお使いください。

パッケージに含まれる内容

メタゲノムガンブラーパッケージには以下のものが含まれています。

1. インストール CDROM

- MGG インストーラ (Windows 用、Mac 用)
- サンプル配列データ
- ドングルドライバー
- ドングル更新用プログラム (Secure Update Utility)

2. ドングルキー (USB ポート用) 1 個

3. ユーザーズガイド (本紙) 1 冊

MGG のインストール手順

インストールを行う予定の PC がインストールに適合した仕様になっているかをご確認の上、インストールを実行してください。

インストール作業に必要なもの

CDROM ドライブ

ソフトウェアのインストールメディア

MGG ソフトウェアのインストールは MGG CDROM からのインストールあるいはインターネットからのダウンロードによるインストールがあります。CDROM によるインストールもインターネットからのダウンロードによるインストールも、インストールされるソフトウェア機能には変わりありません。ここでは CDROM によるインストール方法を説明します。

インストールからソフトウェアを起動するまでのあらすじ

インストールのあらすじを理解の上、インストールするとトラブルが少なくなります。

1. CDROM をドライブに挿入します
2. インストールプログラムが自動的に起動します。
3. 仕様許諾契約書に「同意する」をクリックします（同意しない場合はインストールプログラムが終了します）。
4. ユーザ情報を入力します。
5. MGG ソフトウェアインストール先ディレクトリを指定します（指定しない場合は、それぞれ以下のフォルダーにインストールされます）。
C:\Program Files\isb\MGG (Windows xp, MGG SE の場合)
Applications\MGG (Mac OS X, MGG SE の場合)
6. 要求にしたがって、Java Memory Size を入力します。
7. MGG ソフトウェアのインストールが完了します。
8. ドングルドライバーをインストールします。

ご質問やご意見について

ご質問ご意見の送付先

ご質問やご意見は以下のメールアドレスに送信してください。

info@insilicobiology.co.jp

このとき、メールの件名はなるべく具体的な件名にしてください。メールは自動分類されるため、件名が簡単すぎる場合は誤り分類され、回答までに時間がかかる恐れがあります。

ご質問やご意見の内容について

MGG へのご質問やご意見はなるべく具体的にご記入ください。できればデータや画面ダンプ、要望の場合はスケッチなどを添付して下さるようお願いいたします。また、回答のために必要な個人情報を記入をお願いいたします。弊社の個人情報保護規定は、ホームページ上に公開されています。

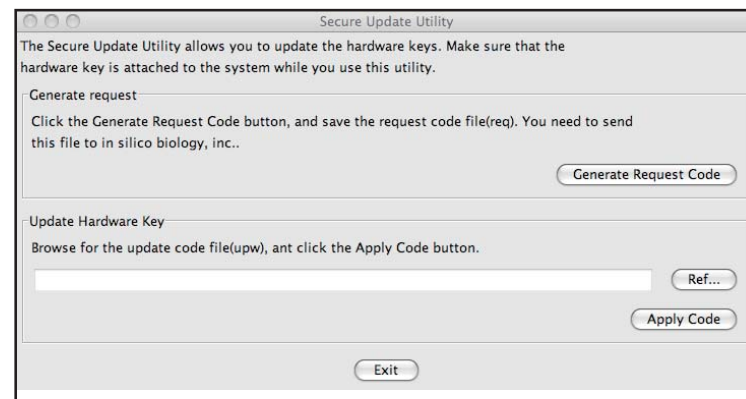
トラブル発生の場合、明記いただきたい項目

MGG に不具合が発生した場合のご質問は上記の他に、以下の項目を明記してください。

1. 使用中の MGG の Edition 名と Version 名
2. 使用中の MGG のライセンス ID（起動画面に表示されます）
3. 使用中の PC あるいは Mac の機種名
4. 使用中の OS の Version 名
5. 実装されているメモリーサイズ
6. 指定した JavaMemory 割当サイズ
7. 使用したデータ
8. トラブル発生の際の具体的な操作手順

Mac 用の Secure Update Utility を使って、ライセンスを dongle に反映させます。

1. メールに添付されてきたファイルを適当な場所に保存します。
2. Dongle を USB ポートに差し込みます。
3. LED が点灯することを確認します。
4. Secure Update Utility.command を起動します。

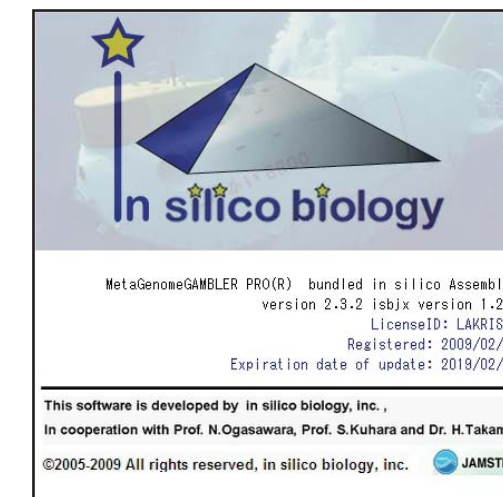


5. Update Hardware key のファイル参照ボタンをクリックします。
6. 表示されるファイル選択ダイアログを利用して、メールに添付されてきた Dongle 更新用ファイルを選択します。
7. Apply Code ボタンをクリックします。
8. Success というメッセージが表示されれば、ライセンス更新は成功です。
9. Dongle を引き抜いても構いません。

9. USB ポートに Dongle を挿入、デスクトップ上の MGG アイコンをダブルクリックします。



10. MGG が起動し、MGG のスタートウィンドウが表示されます。



インストールの実行 (Windows)

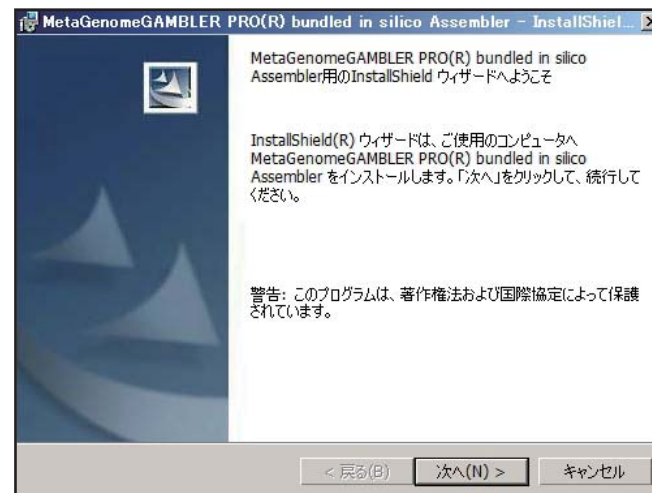
上記手順を再度ご確認ください。インストールを実行してください。

CDROM からのインストール

MGG ソフトウェア CDROM を CDROM ドライブに挿入します。

インストーラの起動

すると自動的にインストーラプログラムが起動されますので、その質問に答えていきます。



この画面では「次へ (N)」をクリックします。

MGG ソフトウェア使用許諾契約への同意

つぎに、インストール画面は MGG ソフトウェアの使用許諾契約書の文面を表示します。

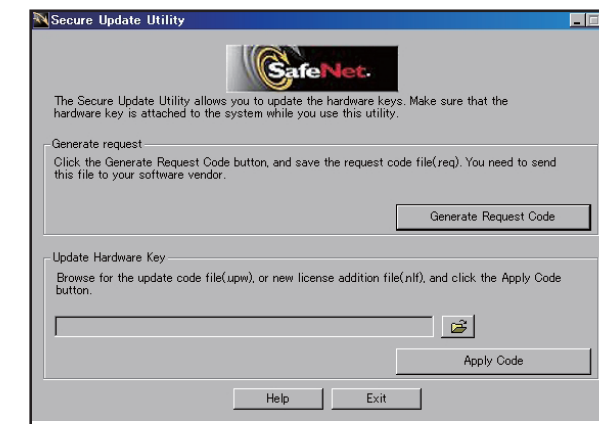
dongルへのライセンスの反映

インシリコバイオロジー社では、そのリクエストファイルを元に dongルを更新するファイルを生成し、メールに添付して「dongル更新用ファイル」をお送りします。このファイルを使って、dongル上のライセンス情報を書き換えることができます。

Windows xp の場合

Secure Upgrade Utility を使って、ライセンスを dongルに反映させます。

1. メールに添付されてきたファイルを適当な場所に保存します。
2. dongルを USB ポートに差し込みます。
3. LED が点灯することを確認します。
4. Secure Upgrade Utility を起動します。



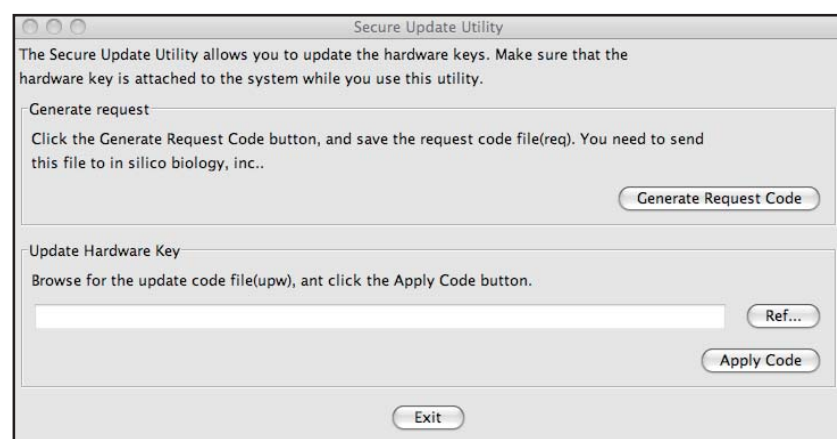
5. Update Hardware key のファイル参照ボタンをクリックします。
6. 表示されるファイル選択ダイアログを利用して、メールに添付されてきた dongル更新用ファイルを選択します。
7. Apply Code ボタンをクリックします。
8. Success というメッセージが表示されれば、ライセンス更新は成功です。
9. dongルを引き抜いても構いません。

Mac OS X の場合

Mac OS X の場合

Secure Upgrade Utility を使って、ライセンス要求ファイルを作成します。

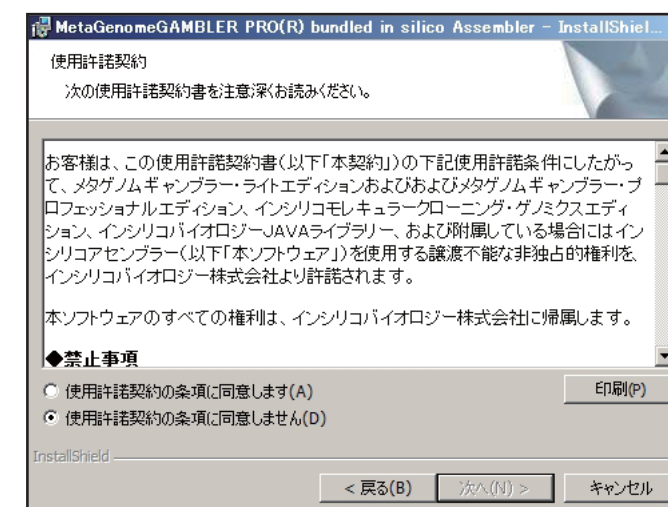
1. アプリケーションズ /mgsxx/bin にある SecureUpdateUtility.command をクリックします。
2. すると SecureUpdateUtility が起動し、その画面が表示されます。



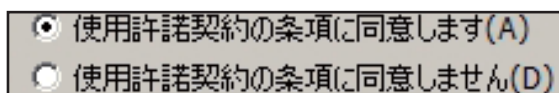
3. ドングルを USB ソケットに挿入します。
4. Generate request 欄の「Generate Request Code」ボタンをクリックします。
5. ファイル選択ダイアログが開くので、ファイル名（任意ですが、ガイドラインのようなファイル名がお勧めです。L9999999 はライセンス ID で、起動画面で確認可能です。）を指定し、保存ボタンをクリックします。

L9999999_MG6PW_20090707.req

6. 保存されたファイルをメールに添付し、以下のアドレスに送信します。
7. 営業時間内であれば、しばらくすると「ライセンス更新用ファイル」がインシリコバイオロジー社から返送されます。



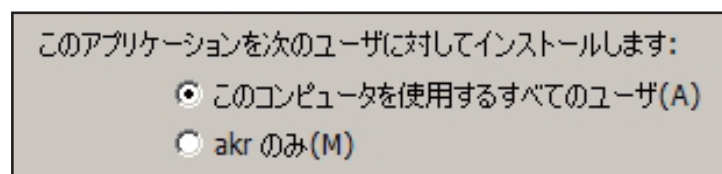
これをよくお読みになり（印刷ボタンをクリックすると印刷も可能です）、契約に同意する場合は、「同意する」ボタンをクリックしてください。

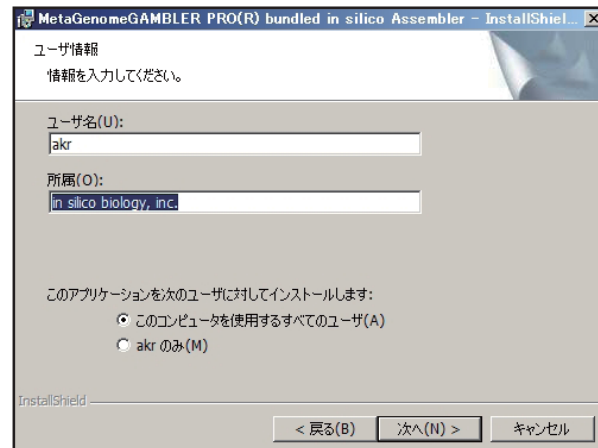


インストールが継続されます。「同意しない」ボタンをクリックされた場合は、インストールは途中終了してしまい、インストールは行われません。誤って、「同意しない」をクリックされた場合は、もう一度最初からインストール作業を行ってください。

ユーザ情報の入力

次に、ユーザ情報を入力します。入力が必要な情報は、ユーザ名称、所属、およびこのユーザのみがアプリケーションを使用するか、すべてのユーザが使用するかの選択です。





画面は上の通りです。

「次へ (N)」をクリックします。

インストールディレクトリの指定

MGG ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定します。指定ディレクトリ以下に必要なファイルが作成されます。デフォルトでは、以下のディレクトリ・フォルダーが MGG ソフトウェアホームディレクトリとなっています。日本語 Windows では、「\」は「¥」と表示されます。

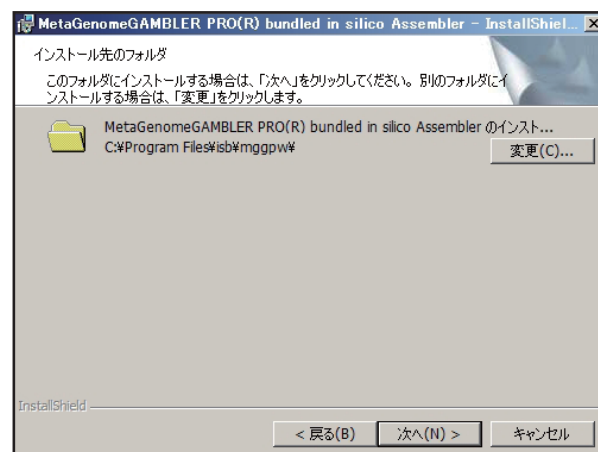
MGG LE(Windows xp) の場合： C:\Program Files\isb\MGGL

MGG LE with Assembler(Windows xp) の場合： C:\Program Files\isb\MGGLW

MGG PE(Windows xp) の場合： C:\Program Files\isb\MGGP

MGG PE with Assembler (Windows xp) の場合： C:\Program Files\isb\MGGPW

デフォルトのままであれば、「次に」をクリックします。



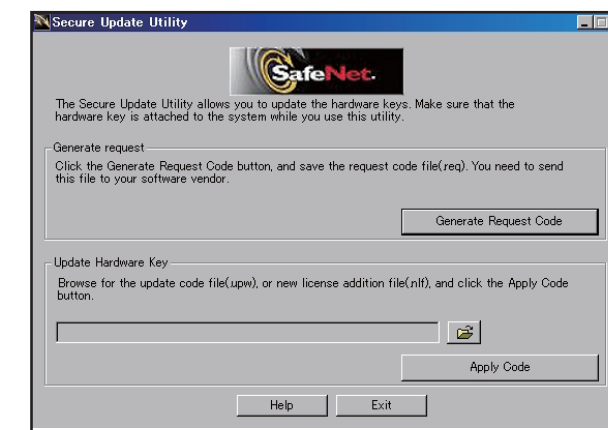
ドングル版ライセンス変更要求ファイル作成

ドングル版のライセンスの更新期限を延長したり、ライセンスをアップグレードしたり、あるいは MGG 以外の弊社アプリケーションを追加登録する場合には、以下の操作を行い、ライセンス変更要求ファイルを作成します。作成されたファイルをメールで弊社宛て送信することにより、ライセンス変更が可能となります。

Windows xp の場合

Secure Upgrade Utility を使って、ライセンス要求ファイルを作成します。

1. スタートメニュー → すべてのプログラム → in silico biology, inc. → mggxx → SecureUpdateUtility.exe をクリックします。
2. すると SecureUpdateUtility が起動し、その画面が表示されます。



3. ドングルを USB ソケットに挿入します。
4. Generate request 欄の「Generate Request Code」ボタンをクリックします。
5. ファイル選択ダイアログが開くので、ファイル名（任意ですが、ガイドラインのようなファイル名がお勧めです。L9999999 はライセンス ID で、起動画面で確認可能です。）を指定し、保存ボタンをクリックします。

L9999999_MGGPW_20090707.req

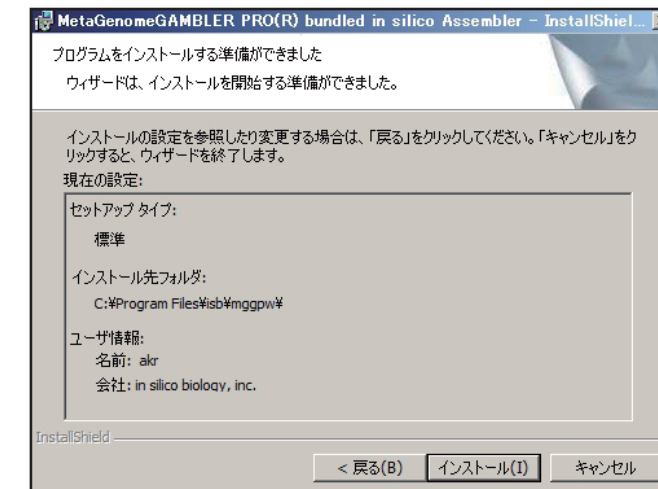
6. 保存されたファイルをメールに添付し、以下のアドレスに送信します。
7. 営業時間内であれば、しばらくすると「ライセンス更新用ファイル」がインシリコバイオロジー社から返送されます。

ドングルへの異なる製品ライセンス追加

MGG 以外のインシリコバイオロジー社製品のライセンスを1つのドングル上に合計5製品まで登録することができます。

たとえば、現在の MGG のライセンス以外に、TaxiSpider のライセンスを追加登録すると、そのドングルを差し込んだ PC あるいは Mac では、MGG と TaxiSpider の両方のソフトウェアを起動することができます。

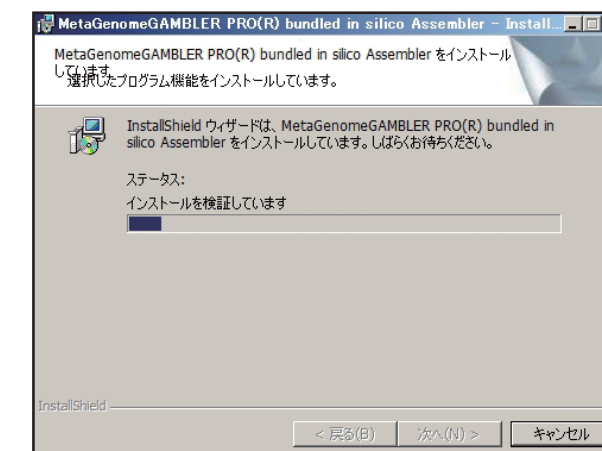
デフォルトディレクトリと異なるディレクトリを MGG ソフトウェアのホームディレクトリとしたい場合は、参照ボタンをクリックし、続いて表示されるファイル選択画面からディレクトリを指定してください。これでインストールの準備が完了します。確認画面に設定項目が表示されます。



設定項目が変更がなければ「インストール」ボタンをクリックします。

インストールの実行開始

インストールが開始されます。インストール中は下のメッセージが表示されます。



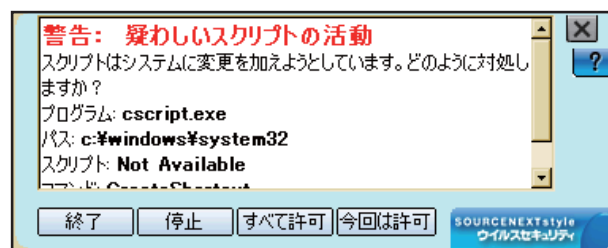
Java Memory Size の入力

インストール中に Java が必要とするメモリーサイズを指定します。このサイズは、コンピュータに実装されているメモリーの大きさを超えないようにします。入力単位

は、MB（メガバイト）です。

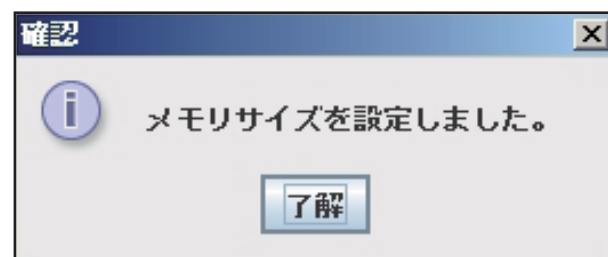


この前後で、使用されているウイルスチェックソフトウェア等から警告メッセージが表示されることがあります。その場合は、一時的に許可をします。



このメッセージや操作方法はウイルスチェックソフトウェアの種類により異なりますので、詳しくはウイルスチェックソフトウェアの説明をご覧ください。

メモリー設定が完了すると下のメモリー設定完了メッセージが表示されます。



固定ライセンスの場合は、ここでライセンス要求ダイアログが表示されます。浮動ライセンスの場合は、ライセンス要求ダイアログは表示されません。

MGG のインストール完了

これで、MGG のインストールは終了します。

ドングルライセンスのアップグレード

現在使用中の MGG 製品より上位の MGG 製品にアップグレードすることができます。この場合も、ドングルを送り返す必要なしに、ライセンスを延長更新することができます。アップグレードの手順は、前項の「ドングルライセンスの更新」と同じです。

MGG のアップグレードには、以下のものがあります。

1. スタンダード版からゲノミクス版へのアップグレード
2. スタンダード版からアレイ版へのアップグレード
3. ゲノミクス版からアレイ版へのアップグレード

ドングルライセンスのアップデート期限更新

アップデート期限が超過した場合でも、ドングルを送り返す必要なしに、ライセンスを延長更新することができます。

以下に、ドングルに登録されているライセンスの更新・登録ソフトウェアの追加手順を説明します。

1. **Secure Update Utility** を起動し、USB ポートにドングルを差し込み、ライセンス要求ファイルを生成します。
2. 生成されたライセンス要求ファイルをメールに添付し、インシリコバイオロジ社の以下のアドレスに送付します。

license@insilicobiology.co.jp

3. インシリコバイオロジ社からライセンス更新ファイルがメールに添付されて返信されます。
4. **Secure Update Utility** を起動し、USB ポートにドングルを差し込み、ライセンス更新ファイルを指定してライセンス更新プロセスを実行します。
5. 以上でドングル上に記録されたライセンス情報が書き換えられます。以後、新しいライセンスで **MGG** を実行することができます。

上記の操作は、**MGG** がインストールされているどの **PC** や **Mac** 上で実行しても構いません。ライセンス情報はドングルにのみ書き込まれ、**PC** や **Mac** の本体には書き込まれません。

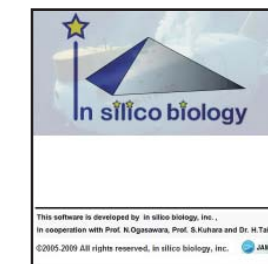
現在のところ、**Windows** 上でこの更新手続きを行う方が簡単です。



MGG の起動

デスクトップ上に **MGG** のアイコン  が表示されているので、ドングル

を USB ポートに差し込んでから、**MGG** のアイコンをダブルクリックしてください。**MGG** が起動します。



インストールの実行 (Mac OS の場合)

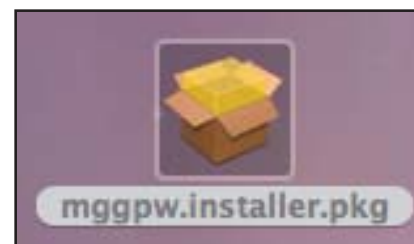
Mac OS の場合は、以下のようにインストールを実行してください。

CDROM からのインストール

MGG ソフトウェア CDROM を CDROM ドライブに挿入します。インストール CDROM を開き、Mac というフォルダーの中にある MGGXX.tar.gz (XX には L, LW, P1, PW の文字が入り、それぞれ LITE Edition, LITE Edition with in silico Assembler, Professional Edition, Professional Edition with in silico Assembler のインストーラであることを示す) をデスクトップなどに保存します。



保存した MGGXX.tar.gz をダブルクリックします。すると、圧縮ファイルが展開され pkg ファイルが生成されます。そのアイコンをダブルクリックします。



すると、下のようなウィンドウが開き、インストールの準備が開始されます。

ドングルライセンス更新の準備

Secure Update Utility のインストール

Windows xp の場合

Secure Update Utility は、MGG パッケージに含まれています。MGG をインストールすると同時に、Secure Update Utility もインストールされます。Secure Update Utility がインストールされるディレクトリーは以下のとおりです。

Mac OS X の場合

Secure Update Utility は、MGG パッケージに含まれています。MGG をインストールすると同時に、Secure Update Utility もインストールされます。Secure Update Utility がインストールされるディレクトリーは以下のとおりです。

ドングルの更新・アップグレード・製品の追加

ライセンス更新が必要なケース

ライセンスの更新が必要な場合は以下のとおりです。

1. ライセンス購入後1年以上経過し、かつ MGG の同一エディションの最新の Version をダウンロード、インストールしたいとき。
2. MGG のエディションを上位製品にアップグレードしたいとき。
3. MGG 以外のインシリコバイオロジー社製品を、同じドングル上に追加登録したいとき。

ライセンス更新手続きのあらまし

ライセンス更新が必要となった場合は、以下の手続きが必要です。

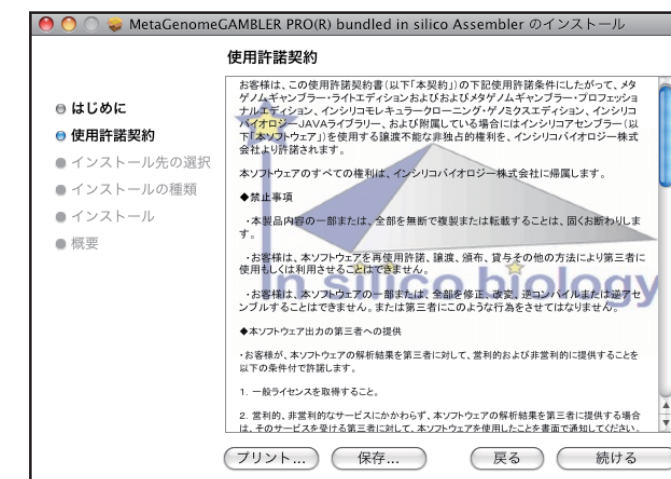
1. Secure Update Utility のインストール
2. Secure Update Utility を起動し、ライセンス更新要求ファイルを生成
3. 生成されたファイルをインシリコバイオロジー社にメールで送付
4. インシリコバイオロジー社からライセンス更新用ファイルがメールで返信
5. Secure Update Utility を起動し、ライセンス更新用ファイルを使ってドングルの更新を実行。



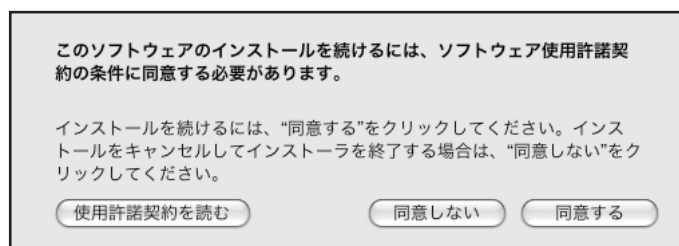
「続ける」をクリックします。

MGG ソフトウェア使用許諾契約への同意

つぎに、インストール画面は MGG ソフトウェアの使用許諾契約書の文面を表示します。



続けるをクリックすると、ポップアップウィンドウが開き、使用許諾契約書に同意する、同意しない、使用許諾契約書を読むなどのボタンが表示されます。



これをよくお読みになり（印刷ボタンをクリックすると印刷も可能です）、契約に同意する場合は、「同意する」ボタンをクリックしてください。



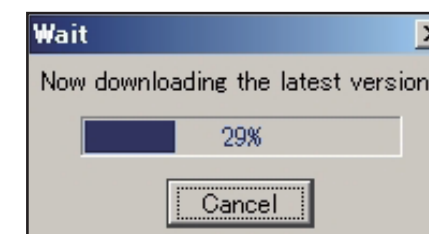
インストールが進行しされます。「同意しない」ボタンをクリックされた場合は、インストールは途中終了してしまい、インストールは行われません。誤って、「同意しない」をクリックされた場合は、もう一度最初からインストール作業を行ってください。

インストールディレクトリの指定

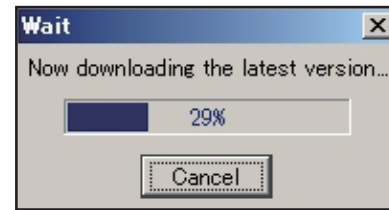
次に表示される以下の画面では、MGG ソフトウェアをインストールするディレクトリを指定します。



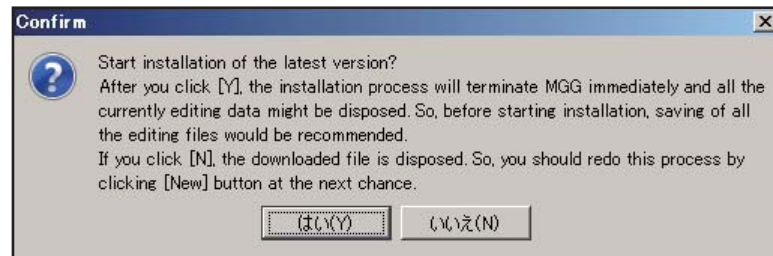
1. OK ボタンをクリックすると、最新 Version のダウンロードが開始されます。



2. 以降は手動確認の場合と同様の操作を行います。



8. MGG のインストールを実行するかどうかを尋ねられます。



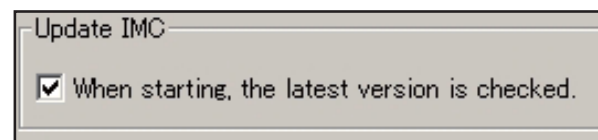
9. 「はい (y)」 ボタンをクリックします。

10. MGG のインストールが開始されます。以降は、通常のインストール方法と同様です。

MGG 最新版の自動確認とダウンロード (近日実装予定)

最初に一度だけ、以下の設定を行います。

1. MGG を起動します。
2. Option 設定ボタンをクリックします。
3. Setup タブ **Setup** をクリックします。
4. Setup タブペイン上の **Update MGG** にチェックします。



5. Apply ボタンをクリックします。

この設定を行った時以降に、MGG を起動したときに現在使用している MGG の Version より新しい Version がリリースされている場合は、以下のようなメッセージが表示されます。



インストールするディスクを選択します



指定ディレクトリ以下に必要なファイルが作成されます。デフォルトでは、以下のディレクトリー・フォルダーが MGG ソフトウェアホームディレクトリとなっています。

MGG LE の場合は： Applications\MGGL

MGG LE with Assembler の場合は： Applications\MGGLW

MGG PE の場合は： Applications\MGGPW

MGG PE with Assembler の場合は： Applications\MGGPW

デフォルトのままであれば、「次に」をクリックし、デフォルトディレクトリと異なるディレクトリを MGG ソフトウェアのホームディレクトリとしたい場合は、参照ボタンをクリックし、続いて表示されるファイル選択画面からディレクトリを指定してください。

これでインストールの準備が完了します。



インストールの実行開始

インストールボタン **インストール** をクリックすると、管理者用パスワードの入力が促されます。



インストールが開始されます。

Java Memory Size の入力

インストール中に Java が必要とするメモリーサイズを指定します。このサイズは、コンピュータに実装されているメモリーの大きさを超えないようにします。入力単位

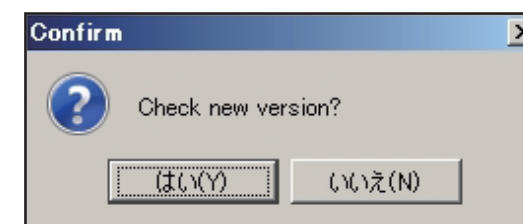
MGG の Version Up

ライセンスのアップデート期限内の場合は、いつでも最新の MGG Version をダウンロード・インストールすることが可能です。

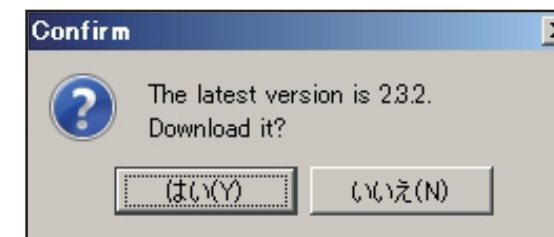
MGG 最新版の手動による確認とダウンロード

以下の手順を、MGG の最新版がリリースされているかどうかを確認したい度に実行します。Windows と Mac で操作方法は同様です。若干ウィンドウの形態が異なるだけです。

1. MGG を起動します。
2. New ボタン **NEW** をクリックします。
3. 最新版がリリースされているかをチェックするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。



4. 「はい (Y)」 をクリックします。
5. 最新版が存在している場合は、それをダウンロードするかどうかを尋ねられます。



6. OK ボタンをクリックします。
7. MGG のダウンロードが開始されます。

>cd c:\Program files\isb\mkgxx\bin

4. IMC を起動するためのコマンドを入力します。

>java -Xmx1000mx -jar MggLauncher.jar

Mac OS X の場合

1. ターミナルを起動します。

2. ターミナルのコマンドラインから操作します。

3. MGG がインストールされているディレクトリに移動します。

>cd Applications/mkgxx/bin

4. IMC を起動するためのコマンドを入力します。

>java -Xmx1000mx -jar MggLauncher.jar

MGG の終了

1. メニューバーから File → Exit を選択します。

2. 確認メッセージが表示されますので、OK をクリックします。

3. MGG は終了します。

は、MB（メガバイト）です。



この前後で、使用されているウイルスチェックソフトウェア等から警告メッセージが表示されることがあります。

その場合は、一時的に許可をします。このメッセージや操作方法はウイルスチェックソフトウェアの種類により異なりますので、詳しくはウイルスチェックソフトウェアの説明をご覧ください。



メモリー設定が完了すると上のメモリー設定完了メッセージが表示されます。



MGG のインストール完了

これで、MGG のインストールは終了します。

すべてのインストールが完了すると、デスクトップ上にメタゲノムガンブラーのアイコンが表示されます。



対処：インシリコバイオロジー社にメールで対処方法を聞く。

原因 2：Java がインストールされていない。

対処：Java の RTE をインストールする。

原因 3：ライセンスファイルが所定の場所がない。

対処：MGG のライセンスを取得する

原因 4：ライセンスがない

対処：MGG のライセンスを取得する

原因 5：試用ライセンスの場合、試用ライセンスの試用期限が過ぎている。

対処：MGG の正規ライセンスを取得する

原因 6：他の画面の裏に隠れている

対処：他の画面を動かして、MGG の起動画面が見えるようにする。

4. 初期画面をクリックします。

5. すると、MGG のメイン画面が表示されます。



MGG の手動による起動

Windows xp の場合

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. コマンドプロンプトのコマンドラインからコマンドを入力して操作します。
3. MGG がインストールされているディレクトリに移動します。

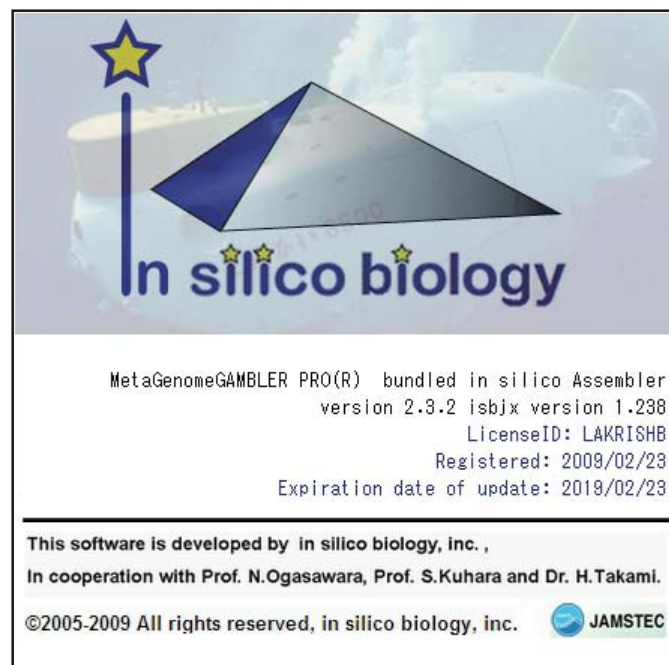
MGG の起動と終了

MGG の起動

1. ドングルを USB ポートに差し込みます。
2. デスクトップアイコンをダブルクリックします。ドングルを差し込んでない場合は、以下のメッセージが表示されるので、ドングルを差し込んでから再度 MGG アイコンをダブルクリックします。



3. すると以下の MGG 初期画面が表示されます。



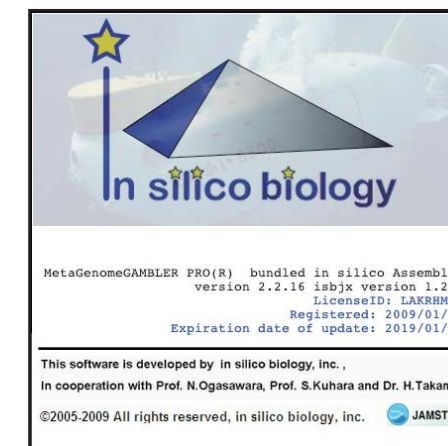
4. MGG 初期画面が表示されない場合は、以下のようなケースが考えられます。

原因 1: MGG のインストールがうまくいっていない。

ライセンス情報の確認

MGG の起動画面上で、ドングルに登録されているライセンス情報を見ることができます。

1. MGG を起動します。
2. MGG の起動画面が表示されます。この画面上にライセンス情報が表示されます。



MGG Version 名: 現在インストールされている MGG の Version 名です。

ライセンス ID: 現在使用中の MGG のライセンス ID です。

ドングル ID: 現在 USB ポートに差し込まれているドングルの ID です。

ライセンス登録日: MGG ライセンスが登録された日付です。

ライセンス更新期限: 現在のライセンスで MGG を VersionUp できる期限です。

ライセンス ID、ドングル ID、ライセンス登録日、ライセンス更新期限は、初期登録段階では、このマニュアルの最後に記載されている情報と一致します。

インストールのトラブル

インストール中にエラーとなるケースは以下のようなものが考えられます。

Java Runtime Environment(JRE) がインストールされていない

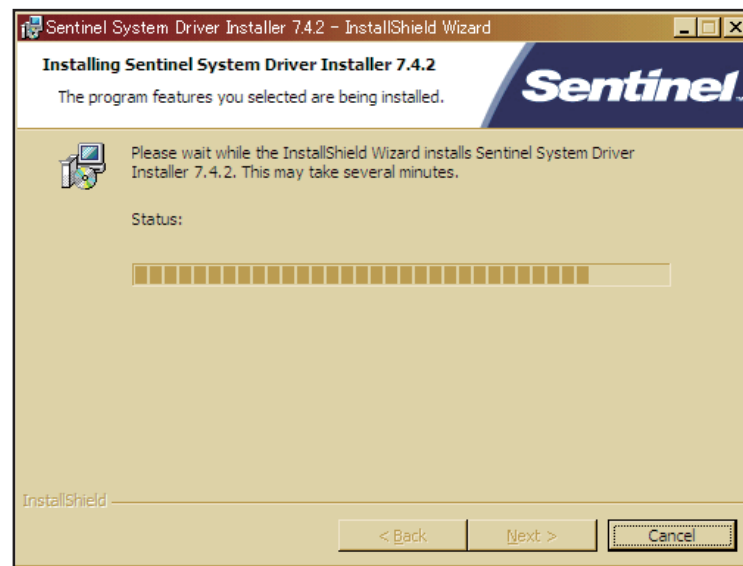
MGG のインストールおよびその後の利用のためには、Java Runtime Environment が予めインストールされていることが必要です。Mac OS X ではコンピュータの購入時点ですでにインストールされているため、このトラブルはありませんが、Windows の場合は、JRE をユーザがインストールすることになっているため、JRE がインストールされていない場合があります。

JRE がインストールされていない場合は、JRE をダウンロードし、MGG のインストール以前に、JRE をインストールしておく必要があります。JRE インストールについては、次の項目で記述されています。

Java Memory Size を実装メモリーサイズ以上に設定した

この場合は、インストールは成功しますが、MGG の起動がうまくいきません。Java のメモリーサイズの変更は、インストール時以外にも設定可能です。Java Memory Size の変更については、10 ページに記述されています。

1. このファイルをダブルクリックすると、ドングルドライバーのインストーラパッケージが展開生成されます。
2. この pkg ファイルをダブルクリックするとインストーラが起動します。Windows と画面が異なりますが、同一の内容を設定し、インストールすることができます。
3. 「続ける」ボタンをクリックすると、License Grant/Warranty for Software (ソフトウェア使用許諾書) が表示されるので、「I accept the terms in the license agreement」をオンにして、Next ボタンをクリックします。
3. 次に、セットアップタイプを選択します。通常は「Complete」をオンにして、Next ボタンをクリックします。
4. インストールボタンをクリックすると、ここからインストールが実行開始となります。
5. ドライバーがインストールされると完了ウィンドウとなります。「Finish」をクリックして、インストーラを閉じます。



6. 「Finish」をクリックして、インストーラを閉じます。



Mac OS X の場合

Mac 用ドングルドライバーのインストーラは CDROM およびインストール後は通常以下のディレクトリーに SentinelSystemDriver.tar.gz という名称で保存されています。

Applications\MGGXX\driver\mac

JRE のダウンロードとインストール

メタゲノムガンブラー (MGG) のインストールには前もって、Java 2 Runtime Environment, Standard Edition(J2SE JRE) Version 1.5.0 以降のインストールが必要となります。Java がインストールされていない場合には、user.properties ファイルが生成されませんので、その時は、J2SE JRE Version 1.5.0 以降のインストールを以下のようにしてください。Mac OS X の場合は通常最初から J2SE JRE がインストールされていますので、通常インストールの必要はありません。したがって、ここでは Windows XP の場合に限って説明します。

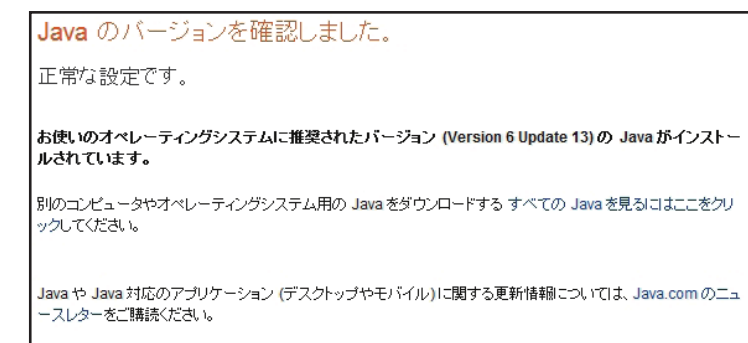
1. 以下のいずれかの URL にアクセスします。

<http://java.com/ja/download/>

<http://java.sun.com/j2se/1.5.0/ja/download.html>



2. 使用マシンに最適な Java の Version を確認します。現在使用中の Java Version が最適であれば、以下のようなメッセージが表示されます。



3. 最適でなければ「無料 Java のダウンロード」をクリックします。

3. すると、最初は英文の License Agreement が表示されますので、それをよく読み、問題なければ、「Accept」にマークし、「Continue」をクリックします。

4. Download 画面に変わりますので、「Windows Platform」の Windows

Installation, Multi-language を選び (Offline Installation を選ぶと全体をダウンロードしてから Installation を行いますが、結果は同じです)、クリックします。

5. すると、ダウンロードとインストールが開始されます。

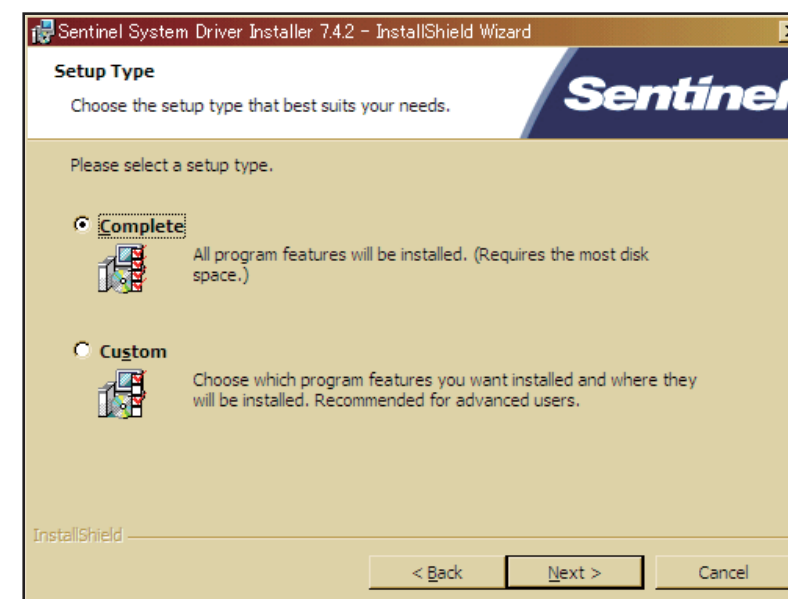
6. 途中で、もう一度、今度は日本語で「利用許諾への同意」が促されますので、内容をよく読んで、問題なければ「同意します」をクリックすると、インストールが続き、インストールは完了します。

7. すでに、MGG をインストールしている場合は、一旦 MGG をアンインストールします。手順については、「MGG のアンインストール方法」をご覧ください。

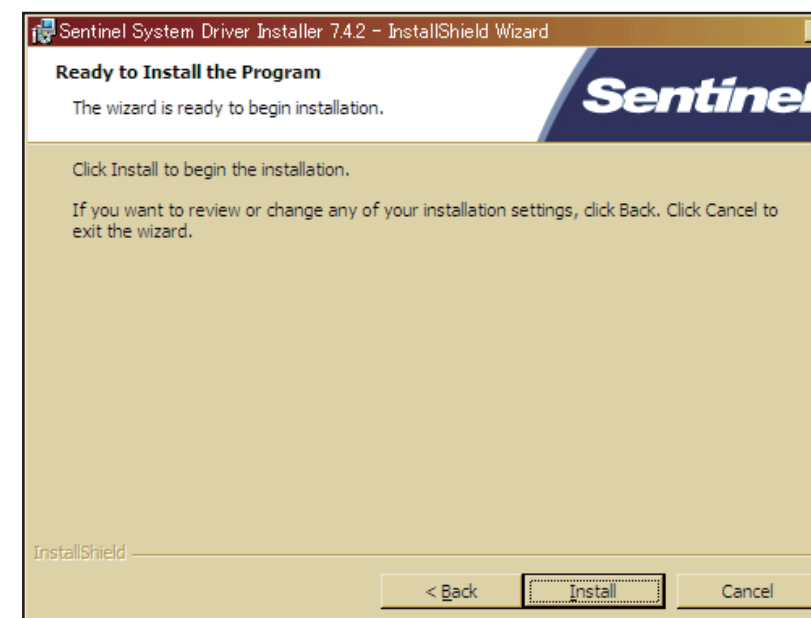
8. MGG のアンインストールが終わったら、最初から MGG をインストールします。

I do not accept the terms in the license agreement

3. 次に、セットアップタイプを選択します。通常は「Complete」をオンにして、Next ボタンをクリックします。



4. インストールボタンをクリックすると、ここからインストールが実行開始となります。



5. ドライバーがインストールされると完了ウィンドウとなります。

ドングルドライバーのインストール

ドングルライセンスの場合は、ドングルドライバーのインストールが必要となります。ドングルドライバーはインストール CDROM に含まれており、MGG のインストール時に、以下のディレクトリ・フォルダーに保存されています。ドングルドライバーは Windows と Mac では異なるインストーラを使用します。

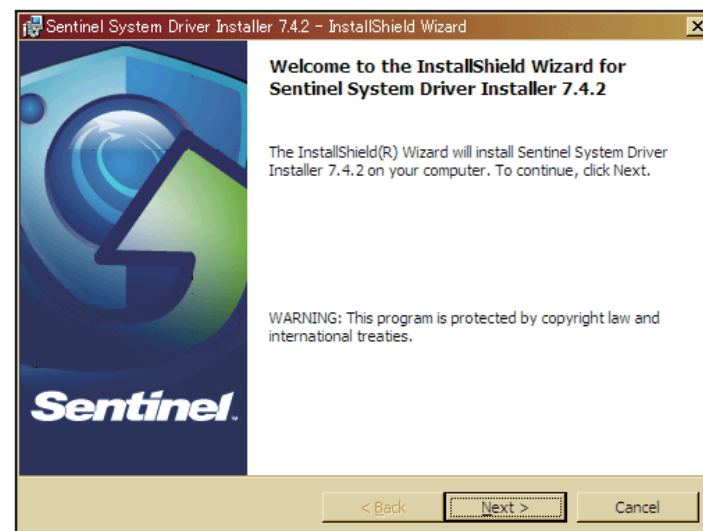
Windows xp の場合

Windows 用ドングルドライバーのインストーラは CDROM およびインストール後は通常以下のディレクトリに SSII7.4.2 という名称で保存されています。

C:\Program Files\isb\MGG\driver\win



1. このファイルをダブルクリックすると、ドングルドライバーのインストーラが起動され、インストーラのウィンドウが表示されます。



2. Next ボタンをクリックすると、License Grant/Warranty for Software (ソフトウェア使用許諾書) が表示されるので、「I accept the terms in the license agreement」をオンにして、Next ボタンをクリックします。

Java メモリー割当の変更

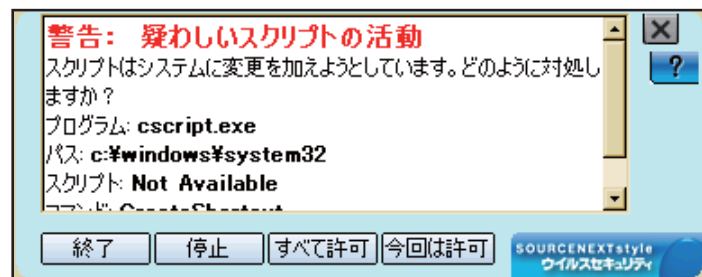
添付のメモリーサイズ変更ユーティリティによる方法と、手動で編集する方法があります。また、インストール時にも、同じユーティリティが自動的に実行され、メモリーサイズを変更することができます。

Java メモリー変更ユーティリティを使用する方法

Windows と Mac では変更方法が異なります。

Windows xp の場合

1. MGG を一旦終了させます。
2. スタートメニューから「すべてのプログラム (P)」 --> 「in silico biology, inc.」 --> MGGxx (ここで xx は L, LW, P, PW のうちいずれか) を選択、最後のメニューで「MGG Memory Setting」を選択します。
3. すると、Java メモリー割当変更ユーティリティが起動します。



4. ウィルスチェックプログラムなどがインストールされている場合は、それらのソフトウェアからの警告メッセージが表示される場合があります。警告メッセージが表示された場合は、「一時的にスクリプトの実行を許可する」などを選択し、一時的に Java メモリー割当変更ユーティリティの実行を許可します。

5. Java Memory 変更ウィンドウが表示されます。



6. 変更したいサイズに Java メモリー割当を入力し、「設定」ボタンをクリックします。

7. この後、ウィルスチェックプログラムからの警告メッセージが表示される場合がありますが、同様に「一時的にスクリプトの実行を許可する」などの対応をします。

と Mac の両方に MGG をインストールしておき、dongle を交互に差し換えることにより、1つのライセンスで Windows と Mac の両方で MGG を使うことができます。

6. プログラムが起動から終了までの間では、dongle を引き抜かないようにしてください。誤って、途中で引き抜いた場合、致命的なエラーが発生する場合があります。

7. dongle ライセンスを使用しているプログラムが起動する前、および終了後は、いつでもdongle を USB ポートから引き抜くことができます。この場合、dongle の LED が点灯していてもかまいません。

8. USB Hub 経由で接続しても構いませんが、USB Hub の使用条件を確認してください。

9. dongle を USB ポートに差し込むと緑色の LED が点灯します。これが消えている場合は、dongle が認識されていない状態を示します。多くは、dongle のドライバーが正しくインストールされていないために発生します。

ドングルとは？

ドングルは **MGG** のライセンスを管理するためのハードウェアキーです。ドングルは USB メモリーのような形状をもち、PC や Mac の USB ソケットに差し込んで使用します。下の写真は、インシリコバイオロジー社が採用しているドングル (SafeNet Sentinel Hardware Key) の概観です。



浮動ライセンスでは、このドングルをライセンス認証機器として使用します。このため、**MGG** の起動から終了のまでの間、USB ポートの1つに差し込まれていることが必要です。また、**MGG** の Version Up の場合、さらに、**MGG** のライセンス更新する場合にも、必要となります。

ドングル使用上の注意事項

ドングルは **MGG** のライセンスを管理するためのハードウェアキーです。

1. このライセンス方式を採用しているプログラムは、その起動から終了のまでの間、USB ポートの1つに差し込まれていることが必要です。
2. また、**MGG** の Version Up の場合、さらに、**MGG** のライセンス更新する場合にも、必要となります。
3. ドングルが動作するには、ドングルドライバーのインストールが必要となります。
4. ドングルの更新には、「Secure Update Utility」のインストールが必要です。
5. ドングルは Windows と Mac の両方で使用できます。すなわち、Windows

8. 「Java Memory Size Changed」というメッセージが表示されます。
9. 「了解」をクリックします。
10. これで、Java メモリー設定は完了です。

Mac OS X の場合

1. 管理者権限でログインします。
2. フォルダー「/Applications/MGGxx/bin」の下にある、`memset.command` をダブルクリックします (xx は L, LW, P, PW)
3. Java メモリー割当変更ユーティリティが実行され、変更するメモリー数値を入力するためのダイアログが表示されます。
4. 実装メモリーサイズを最大値として、Java メモリー割当サイズを入力し、「セット」ボタンをクリックします。
5. Java メモリー割当設定完了メッセージが表示されます。
6. 「OK」ボタンをクリックします。
7. メモリー設定が変更され、ユーティリティが終了します。
8. 管理者権限利用者からログオフします。

手動で Java メモリー割当設定を変更する方法

Windows と Mac では変更方法が異なります。

MGG の最新版をダウンロードインストールするたびにデフォルト値に戻りますので、そのたびに Java Memory 割当を変更してください。また Java Run Time Enviroment の更新によっても、デフォルト値に戻ります。

Windows xp の場合

デスクトップ上のショートカットに設定します。

1. デスクトップに表示されている MGG へのショートカットをマウスで右クリックします。



2. すると、MGG の「プロパティ」画面が表示されますので、「ショートカット」タブをクリックします。

ます。

7. プログラムの削除が開始されます。

Mac OS X の場合

プログラムがインストールされているフォルダー以下をすべて「ゴミ箱」に入れます。

ライト版の場合は、以下のフォルダー以下全部

/Applications/MGGL

ライト版 with in silico Assembler の場合、以下のフォルダー以下全部

/Applications/MGGLW

プロフェッショナル版の場合は、以下のフォルダー以下全部

/Applications/MGGP

プロフェッショナル版 with in silico Assembler の場合、以下のフォルダー以下全部

/Applications/MGGPW

MGG のアンインストール方法

Windows と Mac ではアンインストール方法が異なります。それぞれの OS でのアンインストールを行ってください。

Windows xp の場合

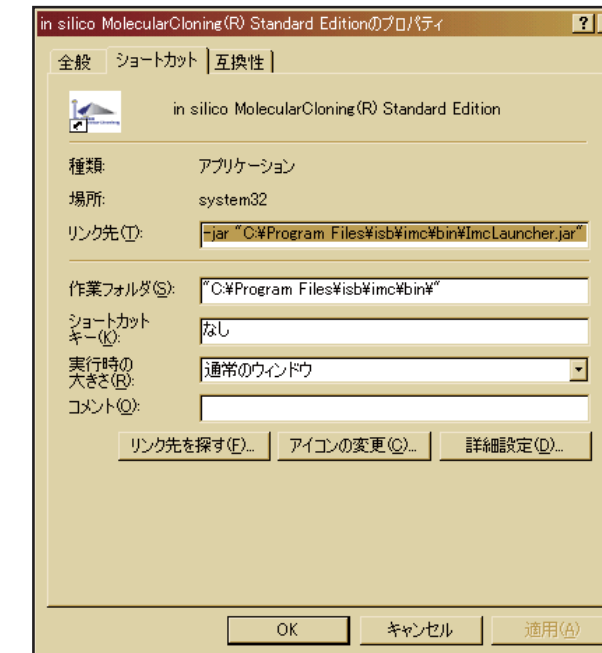
コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を使って、MGG のアンインストールを行います。



1. 「スタート」 → 「コントロールパネル」 → 「プログラムの追加と削除」をクリックします。
2. すると、「プログラムの追加と削除」ウィンドウが開きます。
3. 「プログラムの追加と削除」ボタンをクリックします。
4. すると、現在インストールされているプログラムのリストが表示されます。



5. その中から、MetaGenomeGAMBLER(R) XXX Edition という項目をクリックします。
6. すると、「変更と削除」というボタンが表示されるので、それをクリックし



3. リンク先の内容は以下のようにになっています（インストールされたディレクトリによって、表示される内容は多少異なる場合があります）。

```
C:\WINDOWS\system32\javaw.exe -Xmx256m -jar "C:\Program Files\isb\MGG\bin\MGGLauncher.jar"
```

4. 上記の「javaw.exe」の直後の数値（256）を、両側を空白にして、PC が持っている物理メモリー量を下記の「赤字部分」ように、修正します。下のケースは PC が 512MB 以上の物理メモリーを持っている場合です。1024MB 以上ある場合は、-Xmx1024m のように変更します。

```
C:\WINDOWS\system32\javaw.exe -Xmx512m -jar "C:\Program Files\isb\MGG\bin\MGGLauncher.jar"
```

5. 変更後、OK ボタンをクリックすれば完了です。

注意：現在のところ、JRE 1.4.2 では最大 1222MB まで、JRE 1.5.0(5.0) では最大 1408MB しか使えません。これを超えたメモリーサイズを設定しようとすると、MGG が起動しません。1222MB あるいは 1408MB 以下に設定してください。

注意：ただし、これは PC のメーカーや機種により異なりますので、詳しくはご利用の PC の説明書を参照ください。64-bit マシンではこの制限はなくなります。

Mac OS X の場合

メモリーを増やすには、以下のファイルを編集します。

1. Applications/MGG/bin/MGG_se.app/Contents というフォルダーの下に、Info.plist というファイルがあります。このファイルは管理者権限で編集する必要があります。

2. このファイルのメモリーを設定している箇所の数値を変更します。

```
<string>-Xmx1024m</string>
```

3. 上に示す行の数値部分がメモリーサイズを示しています。これを直接変更します。この数値が上の例のように 1024m の場合は 1024MB までの Java メモリーが割られることを示します。

64bit OS を使用する場合

Windows xp の場合

Windows xp 64-bit の場合は、従来の 32-bit の OS が約 2GB までの Java Memory しか割り当てることができなかったのに対し、現在のところ 128GB までの実装メモリーを利用することができます。

インストール方法は、32-bit と同様ですが、インストール先のドライブを選択する必要がある場合は、c:\Program Files ディレクトリを指定してください。c:\Program Files (x86) を指定すると、MGG を起動できない可能性があります。もし、誤って、c:\Program Files にインストールした場合は、MGG をアンインストールし、再度最初からインストールしてください。

Mac OS X の場合

Windows xp 64-bit の場合は、従来の 32-bit の OS が約 2GB までの Java Memory しか割り当てることができなかったのに対し、現在のところ 128GB までの実装メモリーを利用することができます。

インストール時に、MGG インストーラが自動的に 32-bit か 64-bit かを判定し、それぞれの適した設定を行いますので、利用者はこの違いを意識する必要はありません。